

2013/9/13 放送

## 熊本シティエフエム「もっと知りたい熊本～都市政策談話室～」

都市政策研究所長 蓑茂 壽太郎

テーマ：「熊本市都市政策研究所とは」

### ○パーソナリティ

なぜ熊本市が政令指定都市に移行したことによって、研究所というものが必要となったのでしょうか。

#### ●蓑茂所長

今世界の人口は約 70 億人です。この 10 分の 1 の 7 億人ぐらいの人口規模となった頃、都市は誕生しました。1800 年頃、都市に住む人は世界人口の約 9% でした。それが今は 5 割くらいが都市に住む時代になりました。日本でも全人口の約 8 割が都市に住んでいます。都市にはいろんな可能性もありますが、課題があります。そのためには、それを解くための研究を自らがやる必要があります。そうしないと新しい政策を実施できない。そのようなことで都市政策研究所ができたのご理解頂ければいいかと思えます。

### ○パーソナリティ

都市が抱える課題というとは何でしょう。

#### ●蓑茂所長

よく言われるのは交通渋滞が起きるとか、あるいは環境問題だとか、いろんな課題がこれまで言われています。そういった課題を解くという事と、事前にこれらを予測して対策を立てておくという事が必要です。

### ○パーソナリティ

それが研究所の役割であるということでしょうか。

#### ●蓑茂所長

行政が政策を立てる前段、基盤となる部分について調査・研究をしたり、あるいは歴史的なことを紐解いておいたり、そんなことを準備しておくことが、将来の都市目標を定める上で重要だということです。

### ○パーソナリティ

その基盤というか土壌をつくっていくということですね。

#### ●蓑茂所長

まさにそうです。これまでは、大学の研究室であるとか、民間のシンクタンクに行政が委託をして行っていました。ところが政令都市というのは、自らでやる、あるいはそういう人材を市役所の中に育てておく必要があるということです。このようなことから、研究所を置くという事を市が発想されたわけです。

### ○パーソナリティ

現在の政令市熊本をご覧になっていかがですか？

#### ●蓑茂所長

熊本にはさまざまなポテンシャル、潜在性があると思います。森の都と言われたり、豊かな自然環境、熊本城 400 年という歴史の街であったり、いいところがたくさんあると思います。これを維持する上で課題がいくつかあると思います。

例えば、何もしないでおくと緑もなくなってしまう。地下水だってどうなるか分かりません。そういう意味では流域という広い範囲を考えに入れて、水の保全をどうするかということも検討する必要があります。あるいは中心市街地では古くなった建物などがあって、それを再整備する時代になってきています。また、日本全体で人口が縮減しています。そうすると街をコンパクトにする必要がある。そのような様々な課題があると思います。そういった事をひとつひとつ紐解いていく必要があります。

## ○パーソナリティ

そうとう守備範囲が多岐に亘りますね。

### ●蓑茂所長

行政は基本的には縦に長い組織になっていますので、それを横つなぎする様な事をこの研究所でやっていかないと、先ほど申し上げた将来を見越し、展望するための基盤、土壌というものはできないだろうと思います。

政策そのものは行政の各セクションでやりますが、そのいろんな政策を考える時の材料になるようなベースとなるものを提供していくのが私たちの役割だと思います。

## ○パーソナリティ

現在はどのような取り組みをなさっているのですか。

### ●蓑茂所長

今は歴史認識に関する研究を行っています。熊本がどのような歴史を歩んできたか、きちんと整理しておかないと将来の展望はできないだろうと考えています。西洋史がご専門の木村尚三郎さんという方が「振り返れば未来」というお言葉を残されています。歴史を振り返ってみると将来が展望できるということです。私はそういったこと材料を研究所が提供すべきであると考えています。行政、あるいは議会の議員の方にも、あるいは市民のみなさんに提供する必要があります。

もう一つは、地域認識に関することです。熊本という地域はどのような地域なのか。九州の真ん中という言い方をしますが、それは地政学的、自然環境的にはどうなのかという地域認識ができるように、熊本市全体の地図をきちんと眺めながら考えていく必要があります。そうすることで福岡の真似だとか、東京の真似だとか、ロンドンの真似ではない、熊本ならではの街づくりや政策ができるだろうと思っています。

この研究所の初動期においては、歴史認識と地域認識をやろうと研究所のみんなで話しています。歴史は繰り返すとも言います。それもいい表現だと思いますが、私は「振り返れば未来」というのが大変気持ちいい言葉と思って紹介しました。

## ○パーソナリティ

これからの都市政策研究所の取り組み、未来はどのようなのでしょうか。

### ●蓑茂所長

この研究所は、政令市になった熊本市に必要ということで作られました。私は最初に就任して、これを「どうしても必要な組織」にしないといけないと思っています。そのためには、熊本市民の生活に貢献するような研究をしたいと思っています。熊本市民の豊かな生活、クオリティを上げる為の研究が一つあると思います。もう一つは産業です。やはり都市産業といえますか、熊本が自立していかなければならない。グローバルな世界ではありますけども、ここで成り立つ産業というものに何か貢献することしたいと思っています。

以前この番組の中で、我々の研究員がそういうお話をしたかと思いますが、「都市の産業」に貢献することが一つ、「都市の生活」に貢献することが一つ、もう一つはそういったものも含めた街づくりと

いうもの、「都市の本質」というものに関わった研究です。この三つキーワードを三角形の頂点としてイメージしながら、研究員は決して多くはありませんが、チームとなってやっけていこうとしています。

内向きの研究だけではなく、情報発信をしていく必要があります。そのため、様々な分野の第一人者をお呼びした講演会を定期的を開催しています。この講演会も回を重ねるごとに、より効果的に職員の政策能力を向上させるため、事前の勉強会をやって、講演を聴いて、講演を聴いた後に講演録を活用した学習会、セミナーというものに少しずつ変わってきており、私としては、これはしめたなと思っています。

私は東京を基盤にしていますが、東京の人にもよく言うことには、私は熊本出身ですから、日奈久はちくわが有名です。ちくわの耳にならないようにと言っています。私は東京でそう言っているのに、熊本でちくわの耳ではしょうがない訳です。講演会を聞いただけではなく、それがきちんと学習会、セミナーになって、みんなが自分で学ぶ、自学するという、そういう風土が市役所の中にできたら政令市らしくなってくると私は思います。

熊本市は 20 番目の政令市です。だけれどもそういった意味では先頭を走る政令市になってもらいたいと思って、今研究所の職員にハッパをかけています。

#### ○パーソナリティ

これからも講演会などを続けていかれるのでしょうか。

#### ●蓑茂所長

持続することが重要だと思います。持続していかないとダメです。多分これは5年くらい経つと、必ず何らかの成果になってくると思います。そういった意味でも少し長い目で見守っていただけたらと思います。それからいろんな要望を研究所に寄せていただけたら有難いと思います。政令市熊本は周辺の自治体と一緒に成長する街だと思っていますので、熊本市内の方に限らず、お寄せいただきたいと思っています。

#### ○パーソナリティ

私たちも熊本市民としてぜひ関わって行きたいと思っています。熊本のことについてもっと知っけていこうという気風になっていけばいいですね。